

♪ たまちゃん と ぱんつ ♪



人物紹介的な

⑥ 珠姫（たまき）

愛称：タマ、たまちゃん等

一言で言えば非常に素朴で、
悪く言えば田舎臭い女の子。
ドジで天然で小動物っぽく、
同性からは愛玩動物のように
可愛がられている。

幼い頃から好きだった幼馴染み
のお兄ちゃんと付き合うことにな
って喜んだのも束の間、
彼氏はなんと真性のぱんつ
フェチだったのであった……。



の
え
た
は
に
れ
ば
シ
ン
が
い
ど
き
……
底
的
に
し
た
に
は
か
り
だ
と
そ
の
美
意
識
の
身
の
要
素
で
あ
っ
た
な
前
の
こ
と
だ
が
、
な
け
れ
ば
ぱ
ん
つ
は
的
な
形
状
に
は
至
っ
て
い
な
か
っ
た

⑦ 彼氏（あなたです）

愛称：お兄ちゃん

ぱんつフェチ。

ぱんつちゃんとおまんこ



彼氏がぱんつフェチすぎるんです……。



相手は幼なじみで
近所に住んでる
六つ年上の
お兄ちゃん

無愛想でよく意地悪も
してくるけど、
時々すごく優しく
勉強も教えてくれて...

小さい頃からずっと
好きだったけど...
私みたいな子供じゃ
ダメだと思ってて...

そんなふうに諦めて
いたら、お兄ちゃん
の方から突然告白して
くれて...

恋人同士になったその日の
うちにえっちされちゃって
.....



最初の頃はまだ
そこまで露骨にぱんつに
執着してる様子は見せて
こなかったけど……

今ではえっちどころか、
普通にお話してる時間より
ぱんつの匂い嗅がれてる
時間の方が長い気が
します……

あのねっ……

たまには……
その……普通に……
してほしいなって……

普通……？

気づかなくて
すまなかったな……
気持ちよくしてくれという
ことだな、ぱんつの上から

ひゃんっ！
そうじゃなくてっ……
もっと普通にっ……！

ぱんつとたまちゃん



はうっ…

そのっ…きもちいい
けどっ…ぱんつ
汚れちゃうからっ…

いい感じに濡れてきた
じゃないか……
これが普通でなくて
何だと言うんだ？

くっ…

っ…

んっ…

キゅっ

タマの大事な
ところを守って
いるんだから
当然の結果だ

あっ

キゅい

ぱんつは汚れるもの
なんだから当然だろう

ふあ

ぱんつと同様に
愛おしい……

この掴み所のない
最高の胸を包んでいる
スポブラもまた――

ふい

えっ…



困った…

言ってる意味が
さっぱり
わからない…

ぱんつと共にその身を
委ねていればいい……

何も恐れることは
ない……

お兄ちゃんって、なんで
そんなにぱんつ好きなの
……？

前から訊こうと
思ってたけど……

そうだな……

まずは何と言ってもそのフォルムだろうか……ぱんつのデザインを考えた偉人の名を悔しいことに俺は知らないが……どうすればこんな奇跡的なデザインが生み出されるのか俺ごときでは皆目検討もつかない……女の子の臀部の形を徹底的に研究し、考慮され尽くした形状、伸縮性、機能性にただただ目を奪われるばかりだった。冷静に考えるとその進化の過程には常に女の子自身の美意識の文化の進化もまた重要な要素であったのだと思う……当たり前のことだが、今日の「女の子」がいなければぱんつは現在のような神がかり的な形状には至っていなかったのではないだろうか。つまりぱんつは常に女の子と共に歩みを進めてきたのだと言える——そう、統計だ。世界中の下着会社は実際の着用者である女性の性器やお尻の形を調べ、より平均的に、且つ完璧な機能性を得るため、統計化されたレベルにおける、色や柄などのデザインにも言えることだろう。小さい子であればどのようなキャラクタープリント等を受け、中高生にはどの程度のキニートとアダルトさの境界を受けるかを調べ尽くし……そのこだわりは柄だけでなく、生地にも及んだ。綿やナイロン、ポリエステル等といった数々の素材を、いかに女の子の肌に最適にフィットするかを考え、調べ尽くした結果に今がある。そんな可愛らしくも美しい存在に、着用者の女の子の一番生活的な匂いや汚れが染み込む過程を考えたと実に胸が熱くなる……考えようによっては、背徳的とすら言えないだろう。神に向かって石を投げる行為にも似ている……そんな穢れを俺——いや、世の男性が好むのは、言わば神が与えた罰なのではないか。少し話が回りくどくなってしまったが、要するに女の子のお尻や股間が最も美しく、可愛らしく見える瞬間こそぱんつをはいている時であり、もちろん脱いだ時も可愛いのだが、より増幅された愛らしさの前に、人間として最も汚らしい部位にこのような輝きが宿って良いのだろうか？と男としては憤りを覚え、性的に興奮を覚えてしまいい、それが好きな女の子のものであれば尚更くんしくなりたくなるのは必然なのではないかと思うわけだ。



うん

別れよう？

大体こんな感じ
なわけだが

と、まあ







ぱんつとたまちゃん









たまちゃんとばんつのおはなし。

ば：やあ、たまちゃん！ ほくばんつだよ！
 た：うん……見たらわかるよ……。
 ば：あれ、あんまり驚かないね。ほくばんつだよ？
 た：そうだね、ばんつだね……。
 ば：そっか、たまちゃんはほくらばんつにちゃんと魂があるって分かってくれたんだよね！ さすが、ほくのご主人様だよ！
 た：ここあとがきだし……何があってもおかしくないかなって……思って……くすん……。
 ば：そんなメタな発言はだめだよたまちゃん！ いうかどうして泣いているんだい！？ たまちゃんを虐めたのはどこのどいつだい！？ おい出てこいよ！ そこにいるんだろ！？
 た：ちがうよ……本編でお兄ちゃんがばんつについて長々と話してたけど、そんなの比にもなんなくらいわけのわかんないことになっててなんか辛くなっただけなの……ばんつはわるくないよ……。
 ば：よくわからないけど、思春期の女の子らしい悩みだと今は理解しておくよ！
 た：うん……ありがと……。
 ば：それでねたまちゃん！ 今日はほくね、たまちゃんに言いたいことがあって来たんだ！
 た：来たって……さっきまではいてたんだけど……。
 ば：たまちゃんがね、ほくのことを気に入ってくれているのはとても嬉しいんだ。大切にはいてくれているしね。でも、たまちゃんは丸一日、同じばんつをはき続けるタイプの子だよ？
 た：え？ うん……お風呂入るときに替えるくらいだし。
 ば：いけないよ！
 た：ふえっ？

ば：おんなのこのおまはね、常に清潔にしておかないといけないんだ。あんまりし過ぎるのもダメだけどね。出来ればほくとしては、一日に最低でも三回は別のはきかえて欲しいと思ってるんだよ。
 た：ご、ごめんなさい……。
 ば：女の子の身だしなみだよ。ほくらはね、君たちが思っている以上に着用していると汚れが溜まっているんだよ。たまちゃんは幸いにもトイレの際にはかなり丁寧に拭いている方だからね。その点ではほくも素に仕事をさせてもらっているけどね。
 た：あ、あんまりそういうこと大声で言わないで……。
 ば：ほくはね、嬉しいんだ……たまちゃんみたいな綺麗好きの女の子らしい女の子に出会えて……。ほくの先輩が仕えていたご主人様なんて酷いもんらしくて、そりゃもう前も後ろも一緒に適当に二、三回拭いただけで……。
 た：た、大変なんだね……。
 ば：それもこれも君たちを守るためだよ。たまちゃんはお部屋だと今みたいにパーカー一枚だけの格好でいることが多いからね。そういう点でも衛生面には気をつけて欲しいと思ってるのさ。
 た：うん……今度から気を付けるよ……。
 ば：たまちゃんも、汚れたばんつを彼氏に嗅がれるのは嫌でしょ？
 た：うん……でもお兄ちゃんはそっちのが好きそう……。
 ば：まあほくも好きだけどね。
 た：えっ。
 ば：さあ、今日はもうお別れの時間だ！ たまちゃん、これからもほくをよろしくねっ！ ばいばい！！
 た：え、あ、うん……ばいばい……。



🐾 たまちゃんとぼんつ 🐾

2011年 5月 1日 発行

印刷会社 PICO様

発行：没後

著者：RYO

連絡先

<http://www.synapse.ne.jp/botugo/>

mayaul@vesta.dti.ne.jp

本書の一部あるいは全部について、
発行者の許諾を得ずに無断で複製・複写することを固く感じます
乱丁・落丁本はお手数ですが、上記の連絡先までご連絡下さい

